

2.課外活動

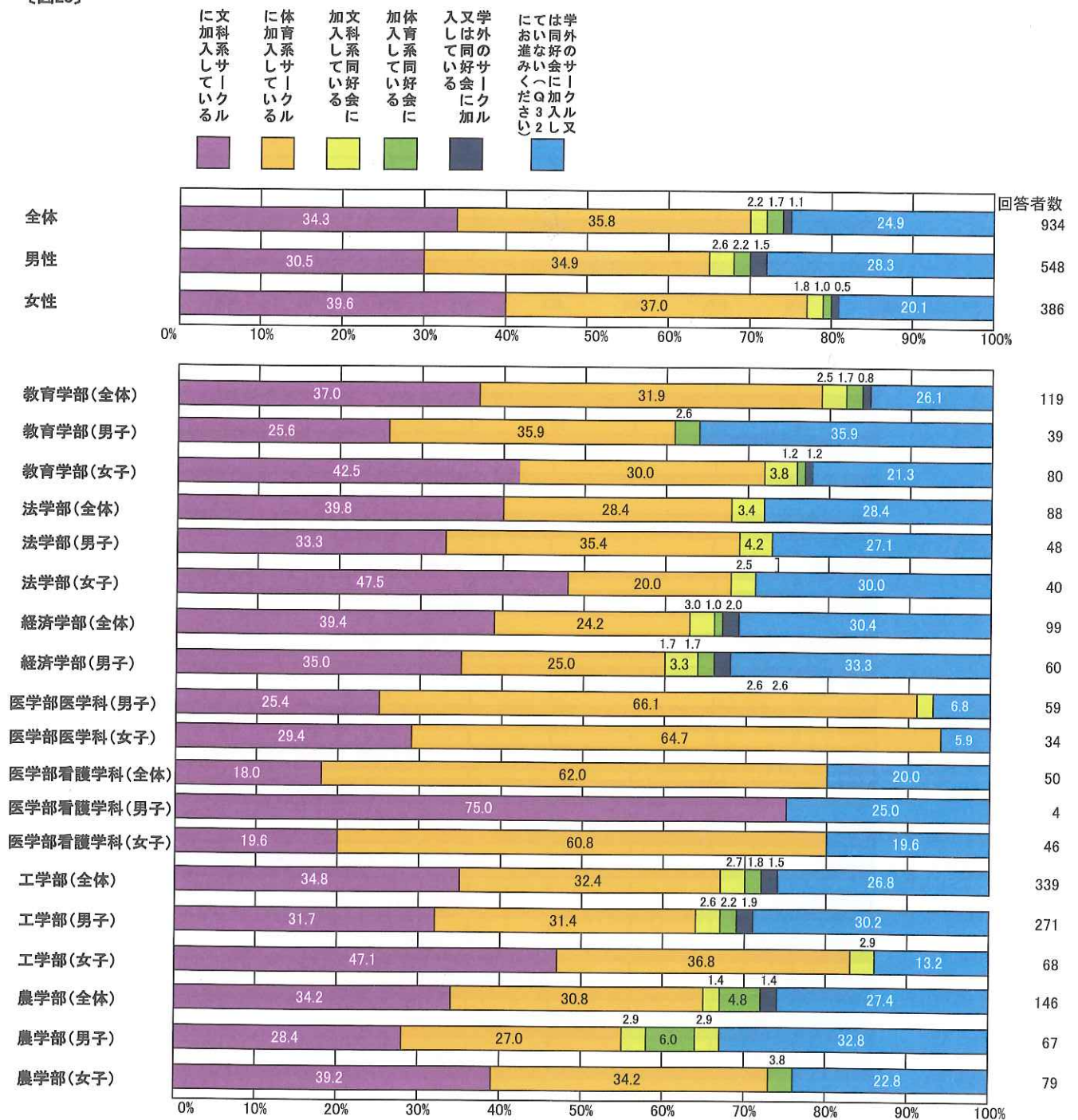
(1)サークルへの加入

問28.あなたはサークル又は同好会に加入していますか。

〔複数のサークル又は同好会に加入している方は主として活動しているものについて回答してください。〕

サークル・同好会への加入率は、極めて高く、4人のうち3人もの学生が、サークル・同好会に加入し、近年、わずかずつですが増加傾向にあります。サークル・同好会活動は、充実した大学生活を送るために、勉学以外の大きな役割を果たしています。より多くの学生の参加が望ましいでしょう。内訳は文化系・体育系ほぼ同じ割合でした。しかし、医学部学生の体育系サークルへの加入率は、他学部の倍近い高い数値となり、体育・スポーツへの関心が高いといえます。

〔図28〕

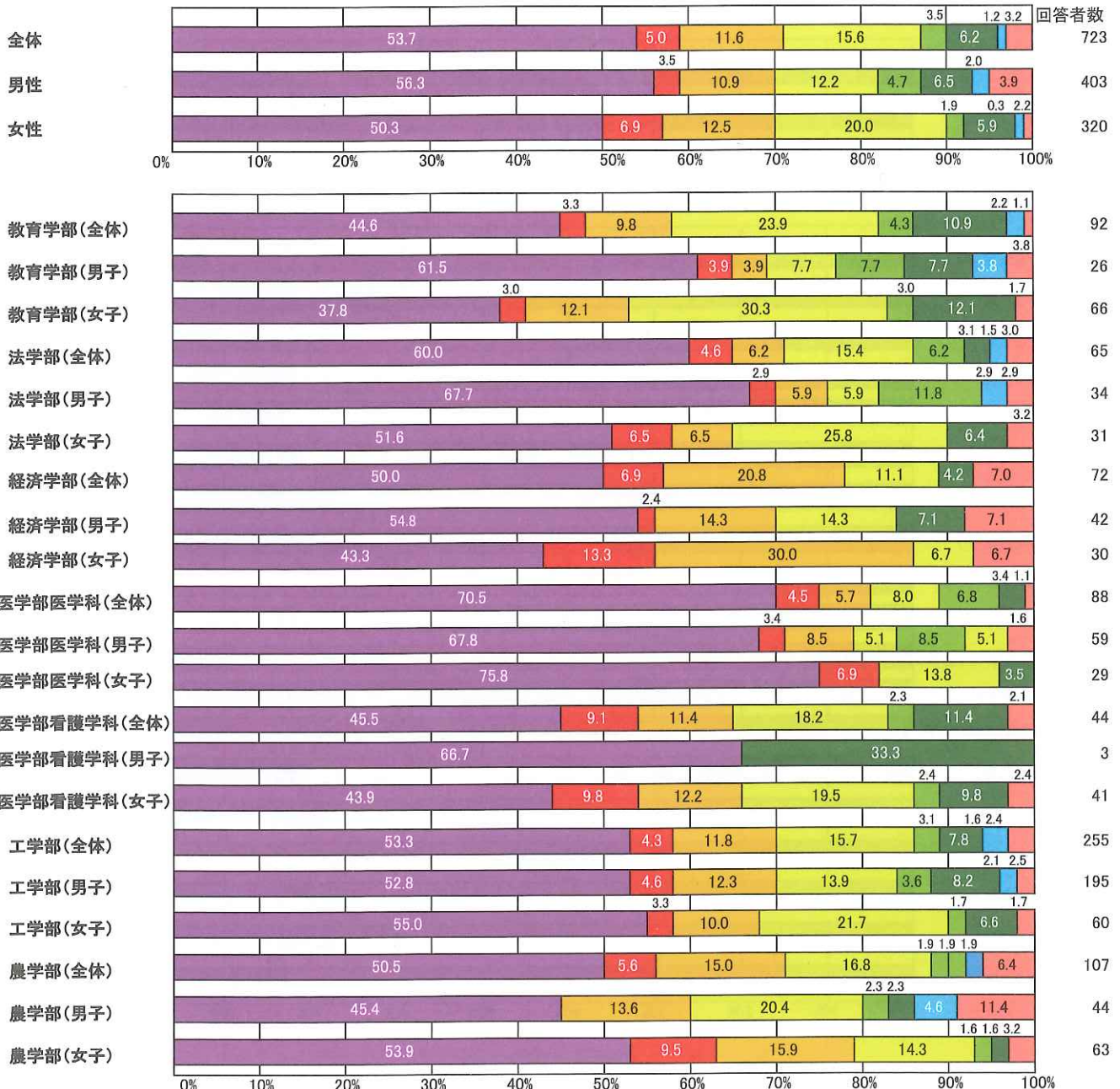
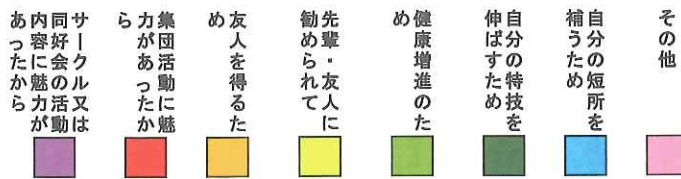


(2)サークル加入の動機

問29 加入していると回答した方におたずねします。加入した動機は何ですか、次の内から一つ選んで教えてください。

全体で「サークル又は同好会の活動内容に魅力があったから」を選択した学生は半数に上り、前回の調査よりも13.7%も伸びています。サークル・同好会の活動が以前より魅力的になり、高校時代からのサークル活動の継続やもともと活動内容に興味があった学生が、自主的に判断するケースが増えたのでしょう。次に多いのは「先輩・友人に勧められて」「友人を得るため」であり、活動への興味より、友人関係を築くため、又はコミュニケーションを求めるために選択したのでしょう。医学部医学科(女子)は、「サークル又は同好会の活動内容に魅力があったから」を選択した学生が75.8%、「友人を得るため」は、0%であり、サークル・同好会の選択への目的意識の高さを伺うことができます。

〔図29〕

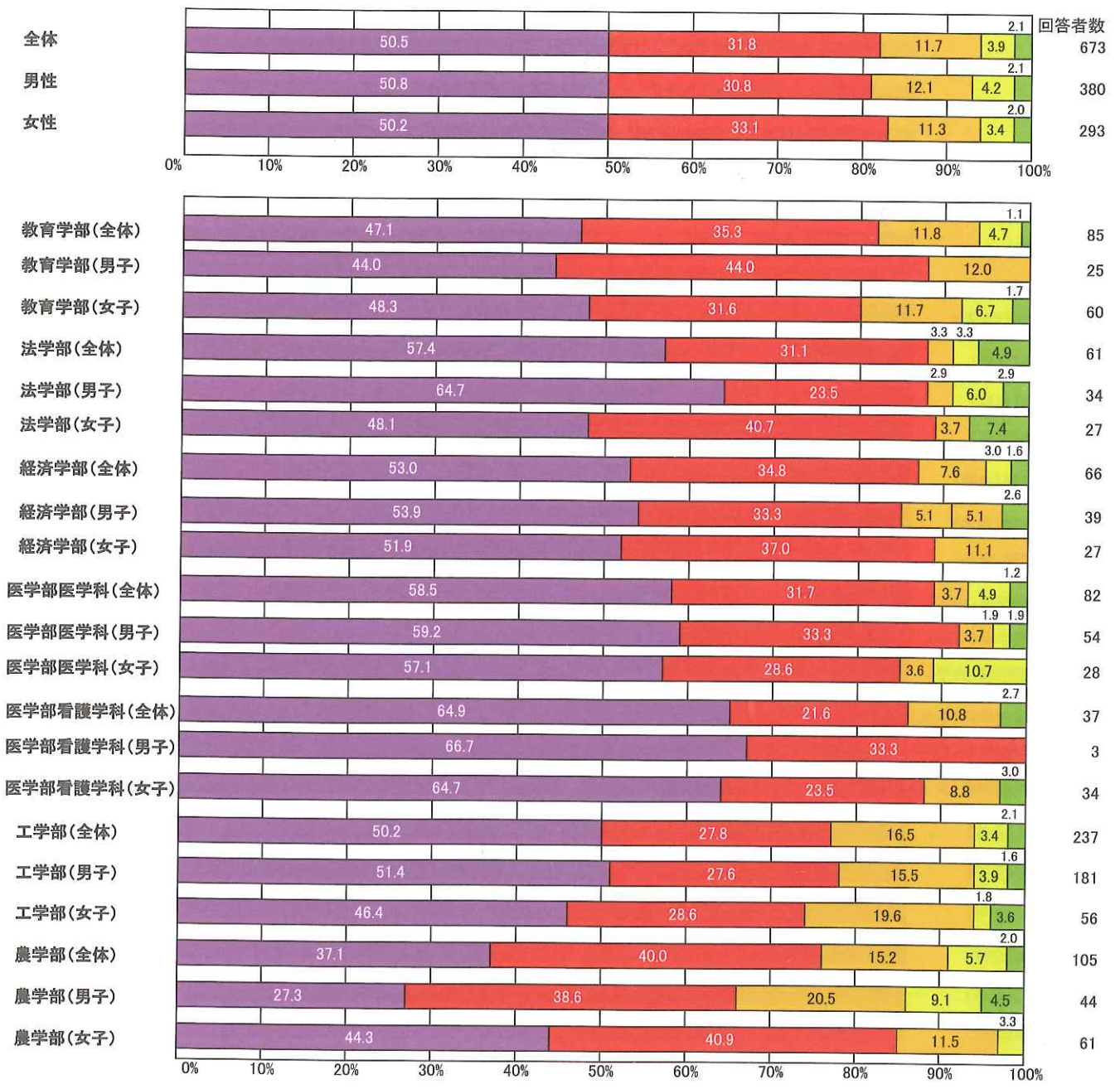


(3)サークルの感想

問30 サークル又は同好会に参加してみてもどのような感想を持っていますか。

「満足している」「どちらかと言うと満足している」と答えた学生は、全体では82.3%となり、現状に大きな問題はないようです。しかし、農学部男子学生の「不満である」「どちらかと言うと不満である」と答えた学生が13.6%、全体平均の倍以上であることから、その原因を注視する必要があります。

〔図30〕

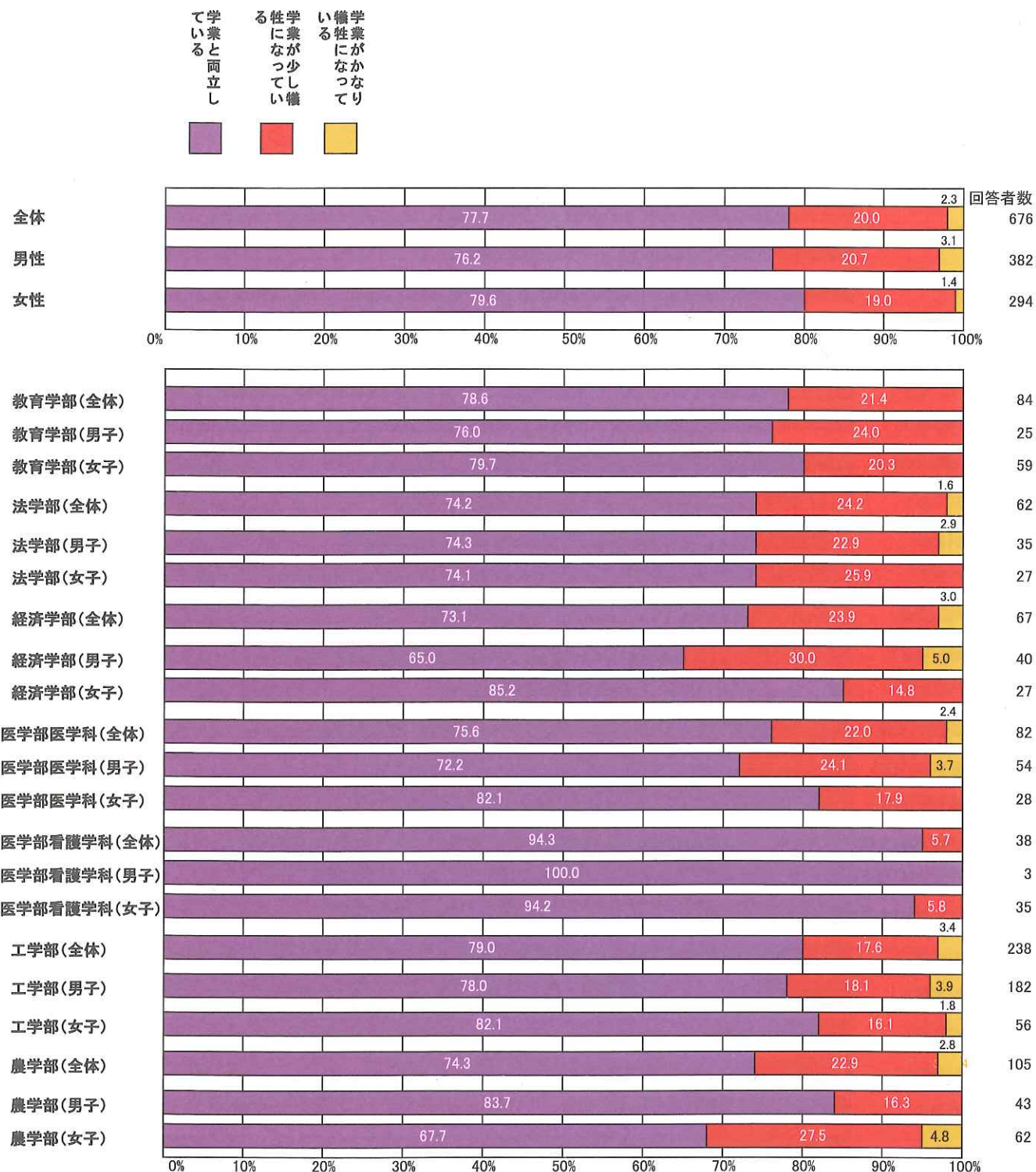


(4) 学業との両立

問31 あなたはサークル又は同好会の活動と学業を両立していますか。

「学業と両立している」と答えた学生は、77.7%となり、前回調査より1.7%、わずかですが増加傾向にあります。但し、経済学部男子・農学部女子は、60%台であり、注視する必要があります。サークル活動と学業の両立は、個人の意識の問題でもあります。サークル・同好会の方針・運営方法も影響していると思われます。学業が犠牲になっていると答えた学生のサークル・同好会名を把握し、顧問等の協力のもと指導する必要があるかもしれません。

【図31】



(5)サークルに加入しない理由

問32 あなたがサークル又は同好会に参加していない理由は何ですか、次のうちから一つ選んで答えてください。

[現在、加入していない方のみ回答してください。]

「魅力的なサークルがない」と答えた学生が30.4%と前回調査より10.4%も増えています。逆に「その他」が33%から14.6%も減り、その原因が気になります。再調査が必要かもしれません。また、法学部男子の50%もの学生が、「魅力的なサークルがない」と答え、経済学部女子40%が「その他」を選び、また、各学部・男女により、調査結果に共通点が少なく、ムラが生じています。これにより、各学部・男女それぞれ、サークル・同好会への加入しない理由が多様化していることがわかります。各学部・男女への細かな調査また、魅力的なサークルとは何かを調査する必要性を感じます。

[図32]

